

CONTENTS

- 2 キラリ輝く奥州人
- 3 栄冠を手にした選手の横顔
—第62回県中学校総合体育大会—
- 8 1人に1つ あなたにも
マイナンバーが届きます
- 10 スマート国勢調査のススメ
- 12 第2桜屋敷ニュータウン宅
地分譲中
姉妹都市 掛川だより
- 13 マラソン大会参加者募
集中！
トマス・アンナの あんなこ
と こんなこと
- 14 おもっちニュースレター
- 15 広報紙で振り返る奥州市の
10年
- 16 百歳おめでとう
- 17 市政ズームイン
- 18 まちの話題
- 20 夢トーク
青春讃歌
- 21 雨の日も晴れの日も
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 22 我が家のアイドル
子ども喜ぶ人気メニュー
- 23 子そだて広場
子そだて行事予定
- 24 情報あらかると
- 28 奥州遺産

地域の個性が
ひかり輝く
自治と協働のまち
奥州市

キラリ輝く
奥州人
22

地元
に寄り添いながら
農産物の魅力を発信

千葉健一さん（66歳）
〓衣川区字小林〓



地元農家から提供される新鮮な野菜が産直の自慢

訪れたお客さんと柔らかい笑顔で談笑する千葉健一さん。県道37号花巻衣川線沿いにある「りんどうの里産直ころが」がアットホームな雰囲気にもまれる。

衣川区で生まれ育ち、高校卒業後は岩手ふるさと農協に勤務。主に金融・共済担当として、地元農家や地域住民と関わる仕事をしてきた。

健一さんが定年退職した直後の平成19年、岩手ふるさと農協下衣川支店が廃止されることになった。空き店舗の活用を考えたとき「それまでは



ちば・けんいち◎昭和24年、衣川区生まれ。りんどうの里産直ころが代表。岩手ふるさと農業協同組合退職後に実家の農業を継ぎ、自身も産直に野菜を卸す。母と妻、長男夫婦、孫3人の8人家族

個人で直売所に持つていくしかなかった」と地域で運営する産直の構想がひらめいた。農産物の加工を行う地元的女性グループや地域住民に声を掛け、同年6月のオープンにこぎつけた。

現在は裏方として品揃えや販路の拡大に取り組んでいる健一さん。来店が難しい人のために、移動販売も始めた。「衣川で作ったものを衣川から発信・販売できる仕組みを作りたい」という思いを胸に、地元農家と消費者を結ぶ仕掛け人として今日も奔走する。

《今月の表紙》



いさわ水の郷夏祭り(同実行委員会など主催)が7月26日、胆沢文化創造センターで開催されました。

胆沢三中吹奏楽部演奏、郷土芸能の演舞、お菓子まき、大道芸人パフォーマンスなどが行われ、会場は大盛り上がり。中でも、お化け屋敷は子どもたちの人気を集め、入場が制限されるほどでした。

写真は、やまゆり音頭と番踊りの出来栄を競った「盆踊りコンテスト」の1こま。子どもの部、一般の部に合計7チームが出場し、思い思いの衣装を身にまとった踊りで、会場を笑顔でいっぱいにさせていました。

前沢中がバドミントン団体・個人（ダブルス）でアベック優勝

栄冠を手にした
選手の横顔

— 第62回 県中学校総合体育大会 —

県中学校体育連盟の主催で、7月10日から13日、18日から20日までの延べ7日間にわたり行われた「第62回県中学校総合体育大会」。市内中学校から多くの選手が入賞しました。今回は、県大会で優勝した選手の皆さんが語ってくれた、大会を振り返っての思いや今後の抱負などを紹介します。



アベック優勝の前沢中をけん引した三瓶萌梨部長（左）と阿部悠人部長（右）